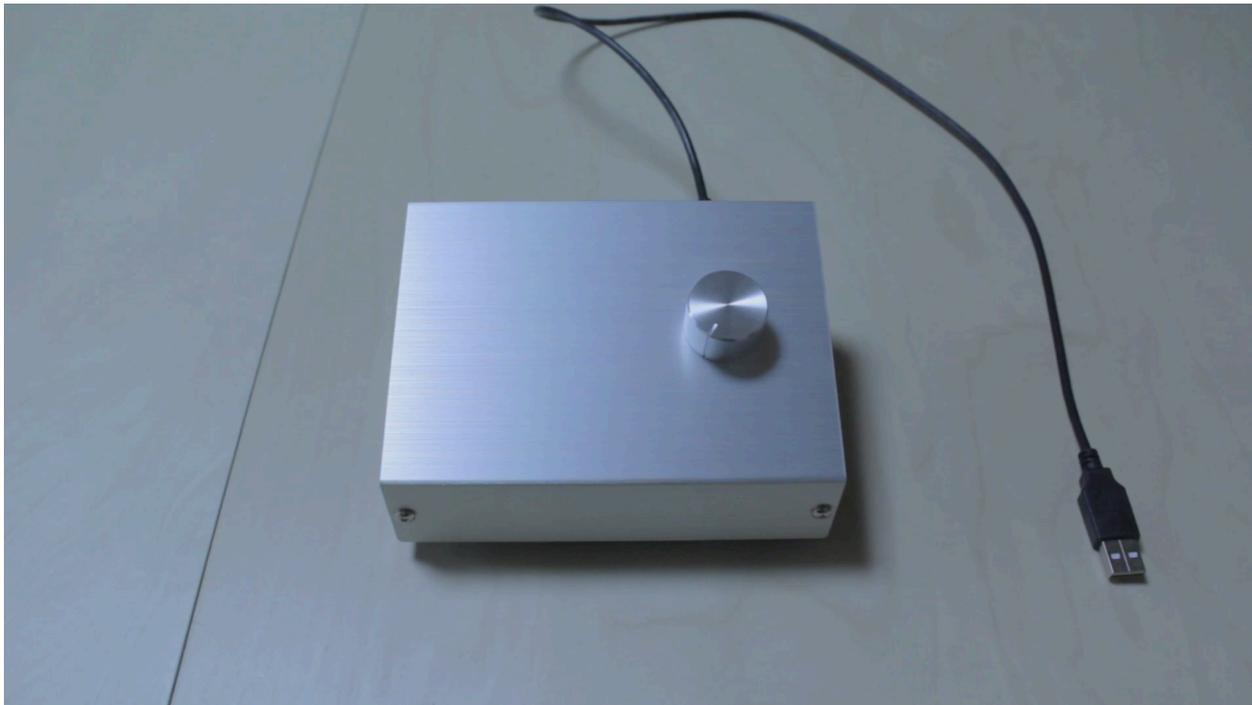
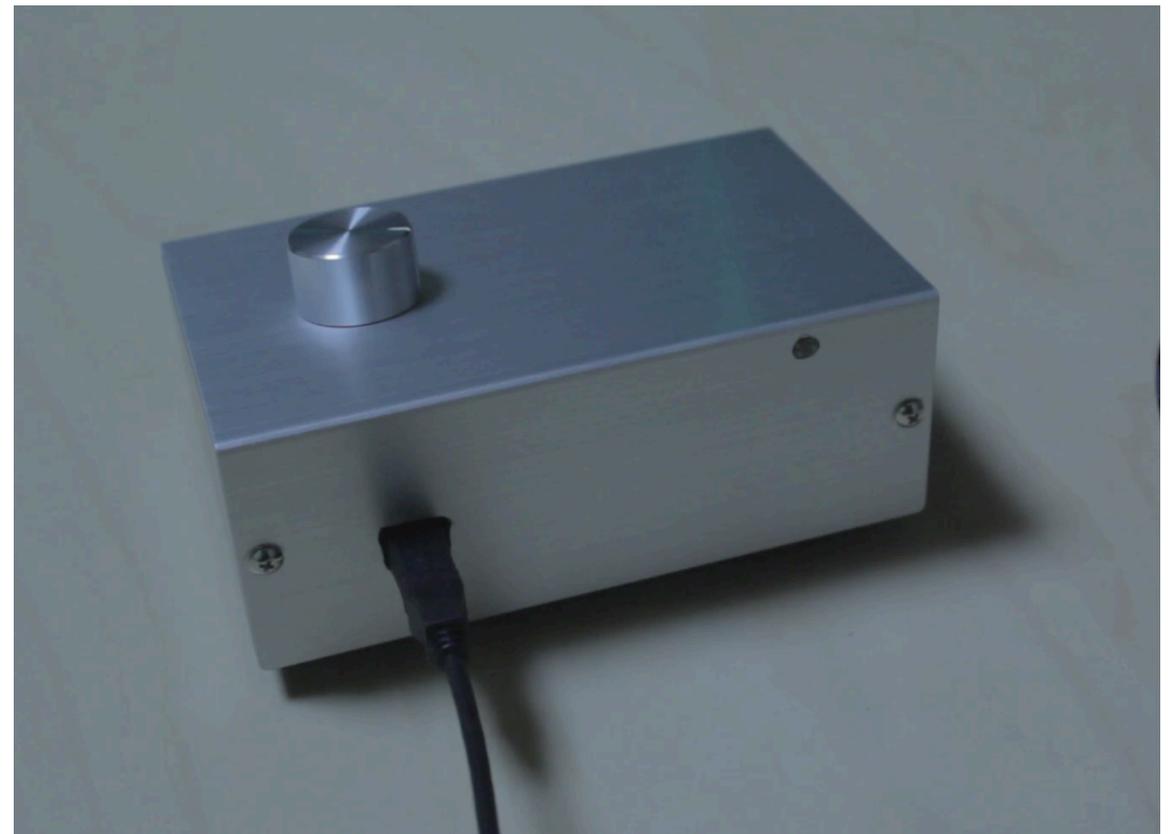


sOnO

○作品外觀

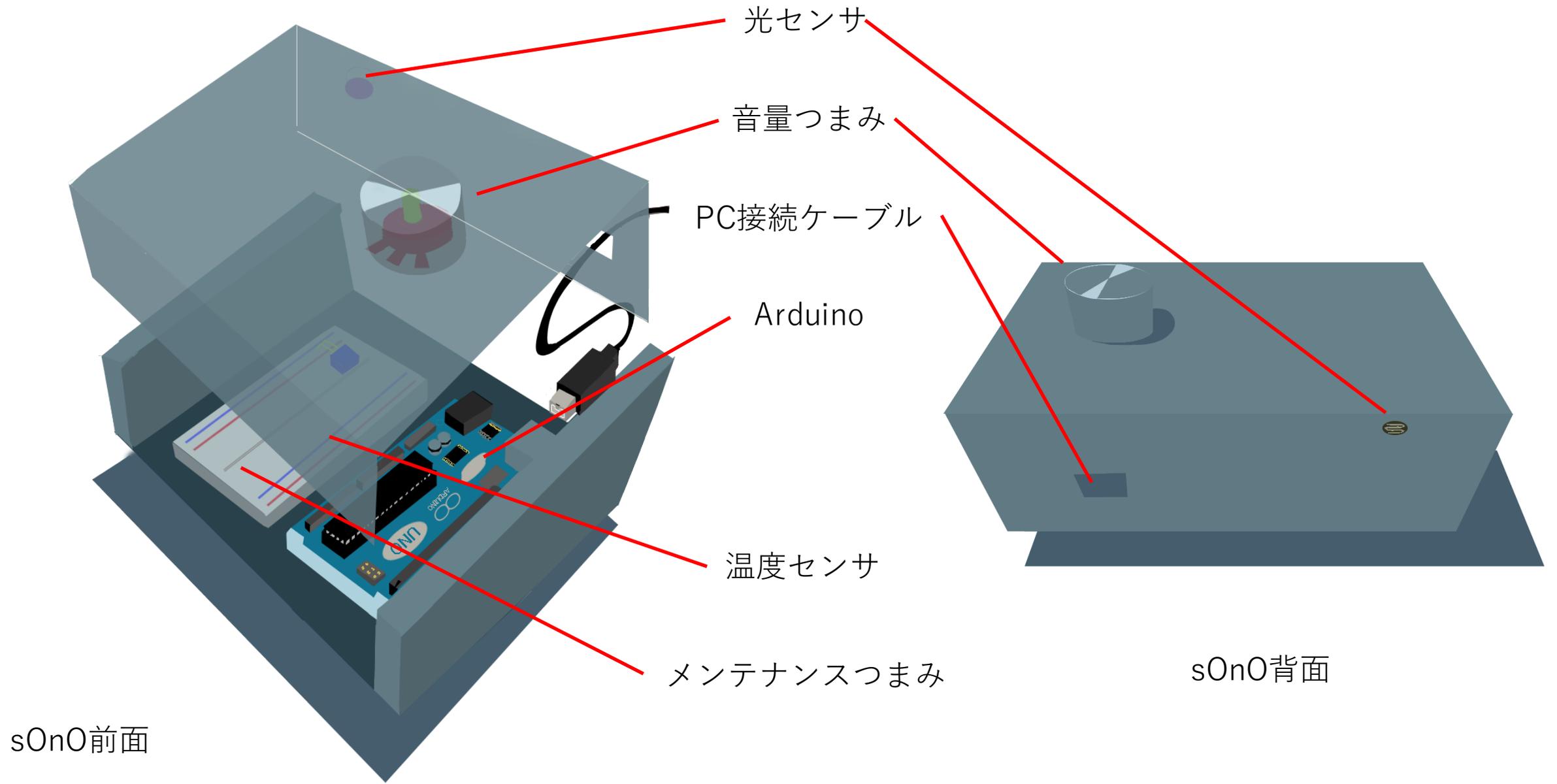


sOnO前面



sOnO背面

○作品構造



○開発・制作・動作環境

開発・制作環境

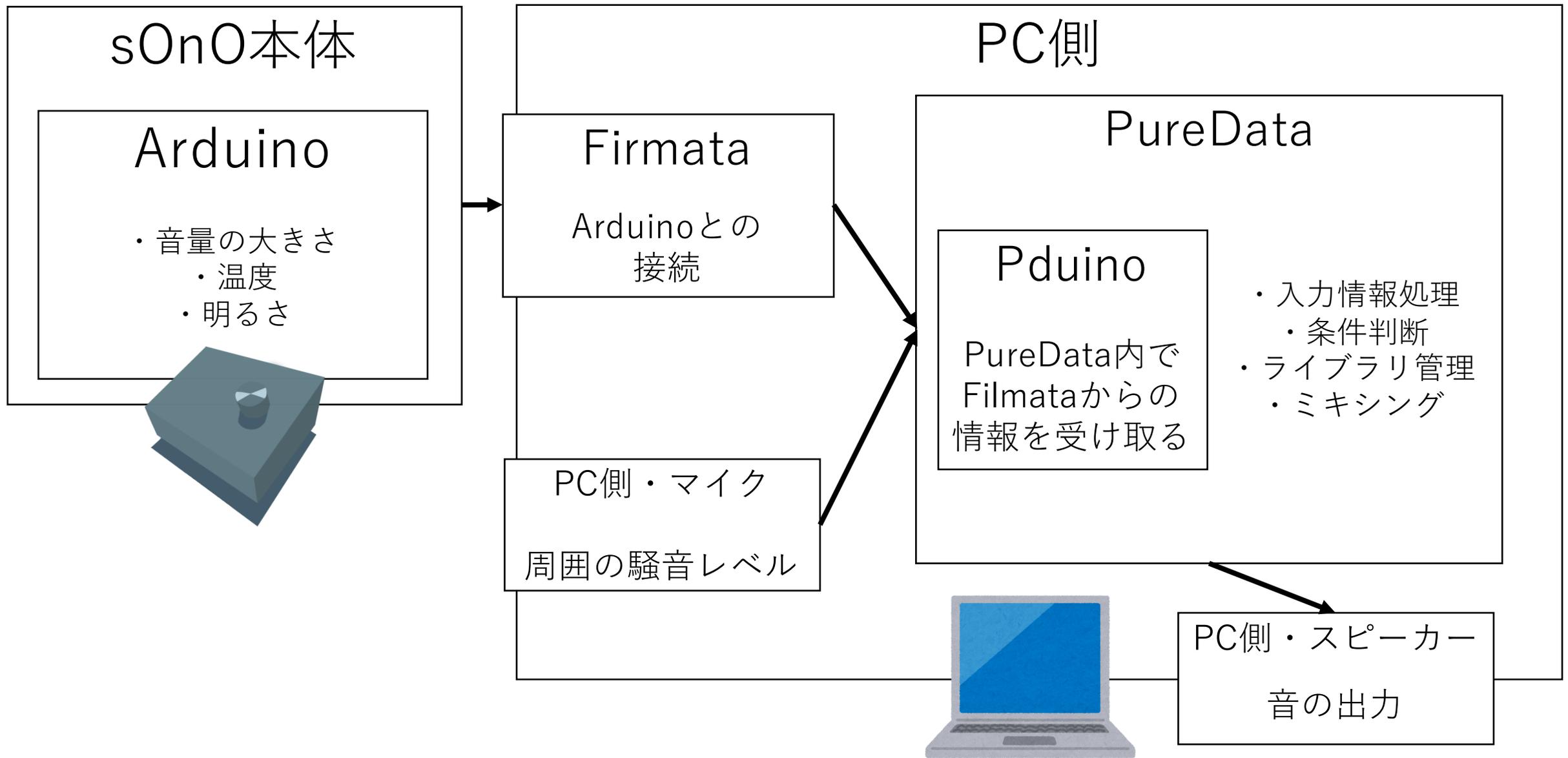
- MacOS X
- Pure Data
- Firmata
- Pduino
- Arduino



動作環境

- PureDataにPduinoがインストールされたPC
- マイクが付いているPCが望ましい
- WindowsPCは機種によって対応。Macbook動作確認済み

○作品制作に使用したソフトウェアなど



○開発内容

sOnO本体に設置された”温度センサー”、”光センサー”、”マイクセンサー”が周りの環境を拾います。センサーの拾った情報と、現在時刻を元に、PureData上で書かれた条件分岐プログラムが作動し、用意された音源ファイルを組み合わせ、鳴らす仕組みです。

温度センサーと光センサーによって、ベースとなる音を2つを抽出します。
マイクセンサーで検知する騒音レベルによっても音のなる頻度が変化します。
また、時間帯によって違うエコーがかかります。
基本的に60秒ごとに判定をし、環境に変化がない場合はそのまま継続されます。

また人間の耳には聞こえないレベルの低音を鳴らすプログラムを記述しました。
直接聞くことはできませんが、「心地いい」空間の助けになるのではないかと実装されています。

ボックス本体についた”つまみ”を回すと、音量を自由に変更することもできます。

○制作内容

「無音でも音楽でもない、新しい選択肢を提供するサウンドボックス」

何か作業をしようと思ったり、ゆったりしたい時。
意外とカフェの店内の様な、また自然の音で心地よく過ごせた経験がある方が多いと思います。

そんな「音響空間」を提供しようと考えられたのがこちらのsOnO（ソノ）です。

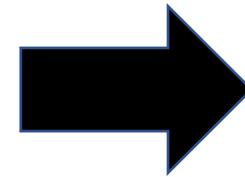
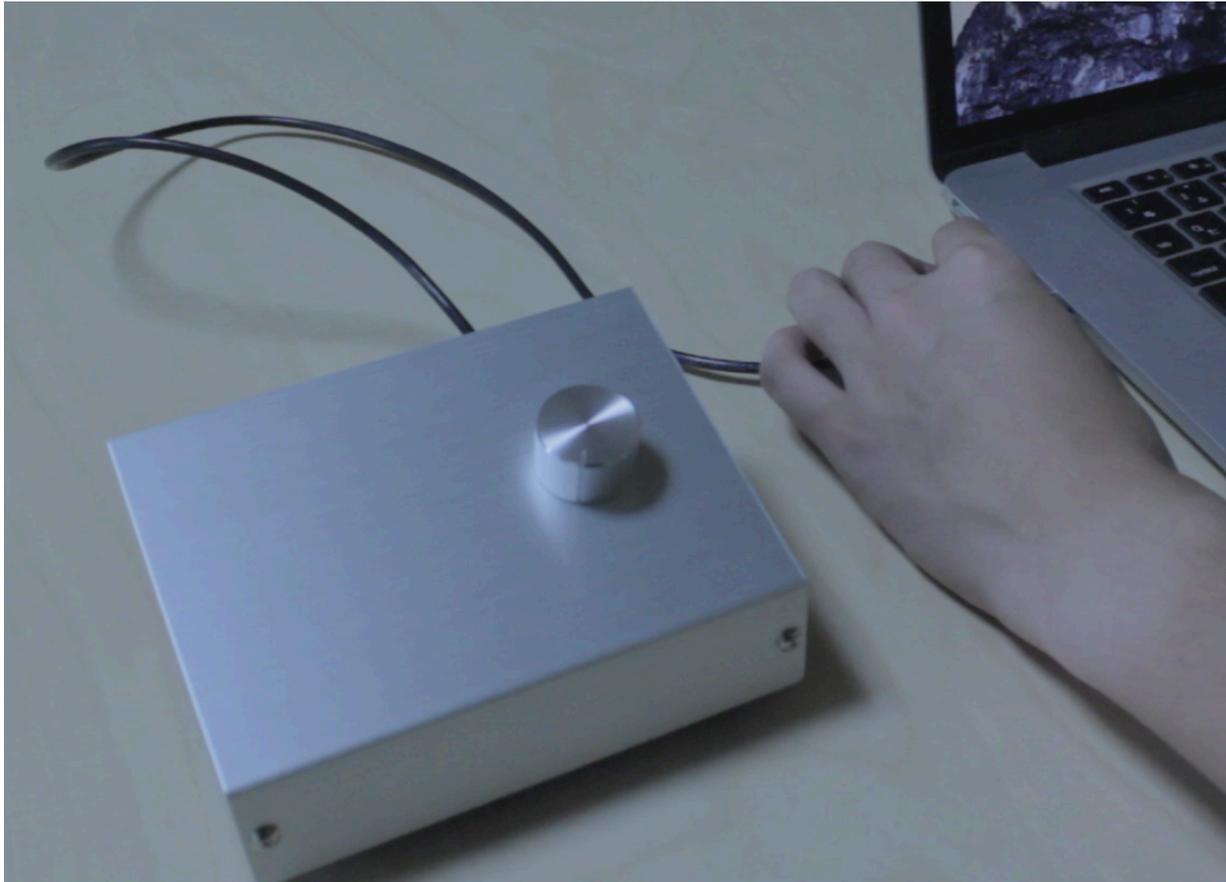
温度、光、騒音を感知する3つのセンサーによって得られた情報や現在時刻を元に、その場の環境に合わせた「サウンド」をsOnOが作り出し、鳴らします。

無音では寂しい空間も、sOnOの作り出したサウンドによって心地良い空間に出来たらと考えました。

極力ユーザー側の出来る事を減らしています。時間や場所、その時々微妙な音の違いなどを何かをしている頭の片隅で楽しんで頂ければと思います。

○操作説明

①PCにsOnOを接続し、プログラムを起動します。



○操作説明

②ボリュームを回し、放っておくだけで音楽を生成します。

